

1. 教育の責任

私は子ども学科教員として、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得における表現分野に関する科目を担当している。2020年度の担当科目は（表1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
保育内容表現	2020	前期	1年生	演習	36名 37名	2クラス
幼児体育	2020	前期	1年生	演習	25名 24名 24名	3クラス
言葉と表現の指導法	2020	後期	1年生	演習	72名	2クラス ※教員2名
ダンスムーブメント（旧リトミックリズム運動）	2020	後期	1.2年生	演習	21名	1クラス
子ども文化演習 B 劇	2020	後期	2年生	演習	67名	1クラス ※教員3名

（表1）2020年度 担当科目詳細一覧

また、授業の他に以下の活動をしている。

2018年度1月～ けやの森学園幼稚園・保育園における表現指導

2019年度5月～ けやの森学園ダンスクラブ

（講師 対象：3～5歳児 30名）

上記保育現場において、表現及びダンスの指導にあたっている。一方向的な指導ではなく、保育者や子ども達が表現することを楽しみ、表現を通して創造的な活動を行える機会を提供できるよう、自身の専門的な経験・知見を生かしている。

2. 教育の理念

私は舞台芸術分野で舞台俳優、ダンサー、ダンスインストラクターの職を経て、保育における「表現」分野の魅力に触れ大学院で学び直し保育者養成校教員となった。教員歴は7年である。保育における「表現」を指導するにあたり、心に留めていることは2つある。1つは、「表現を生み出す子どもたちの心（内にあるもの）を大切にすること」である。表現とは、その人の内側にあるものが、表に（外側に）現れ出てくるものである。外側に現れた表現の結果だけにフォーカスせず、まずは表現を生み出す元になる子ども達の心を豊かに育む体験や環境を保障することや、それを素直に表現できる開かれた心を育む丁寧な関わりの重要性を真に伝えていきたいと考えている。

2つ目は、「創造性と協働性の涵養」である。これは子ども達にとっても、学生自身にとっても、教員の私自身にとっても、である。人にとって「表現」することとは、他と自分を繋ぐコミュニケーションの手段でもあり、様々な問題解決につながる創造的活動でもある。保育における「表現」においても、この広義での「表現」の意味合いを理解することが、子どもと共にある専門的な知識経験を有した大人（保育者）として大変重要である。学生のそのような理解を深めるために、専門的な知識・技術の習得はもちろんであるが、まず自分自身が感性豊かに物事を感じ、素直に相手に心を開きながら、共にあることを楽しみ協働・創造することの魅力と可能性について彼らの体験的学びを通して伝えて行きたいと考えている。同時に、自己を肯定的に捉え、創造的・協働的思考と態度を持って問題解決に当たる力は、時代の要請であることを鑑みると、これらの力を涵養することは「表現」を担当する者としての使命であるとも考えている。

3. 教育の方法

（1）保育内容表現

保育士及び幼稚園教諭養成課程で必修科目である本科目は、保育の内容である5領域の1つを担っている。保育内容領域「表現」に関して、乳幼児の表現やその過程について理解するとともに、①乳幼児の感性や創造性を豊かに育む遊びや環境構成について学ぶこと②表現について根源的に学ぶこと③自身の体験を通して経験することによって保育者としての感性を磨くことを主軸に置き、演習形態で授業を実施している。体験的な学びを中心に演習を行い、①ワークシートを活用し学びの省察・自己評価を行いながら学びを進める②視聴覚

教材や事例の活用・グループワーク・討論・発表等、アクティブラーニングの手法及び ICT を積極的に用いている。表現の元となる感じること＝感性にも視点を当て、広義に感受・表現についての知見を広げられるよう努めている。感性という抽象的な観点をなるべく学生にとって理解しやすく魅力的に伝えるために、講義形式で知識を身につけた後で、キャンパス内を探索するなどし、知識と体験を整理して理解できるようにしている。また、実際に表現活動のプロジェクトを行い、こちらの取り組みではまず学生自身が体験をし、活動後に教員側の意図を答え合わせのように示し、活動の意図を理解しながら省察できるよう工夫した。

（２）幼児体育

保育士資格必修科目である本科目は、保育の内容・方法に関する科目であり、乳幼児の運動遊びについての専門的知識・技能を身につけること、自身の身体性・表現力が及ぼす影響について考えることで、保育者及び社会人としての基本的姿勢を身につけることを授業のねらいとしている。到達目標は①乳幼児の運動あそびの意義について説明することができる。②様々な運動あそびを実践することができる。③発達段階にあった援助、安全管理等、適切な配慮について主体的に考えることができる。④乳幼児を取り巻く現代的課題や、遊び環境の重要性について主体的に考えることができる。⑤自らの身体性や表現力向上に対して積極的に努力することができる。以上５項目を設定している。

授業の中で毎回様々な運動遊びを体験することを通して、スポーツとしての体育ではなく、遊びの中の運動という概念や指導における注意点や動機づけなど、保育者という立ち位置に立っての学びを大切にしている。また、ポートフォリオを活用し学びの省察・自己評価を行いながら学び進めることで、「遊んで終わり」ではなく自身の学びの蓄積を感じ取れる工夫をしている。

（３）言葉と表現の指導法

保育士及び幼稚園教諭養成課程で必修科目である本科目は、保育内容言葉と保育内容表現について子ども達への指導法を中心に展開する発展的な内容の授業である。幼児の言葉や表現に関する現状や課題を踏まえた上で、領域「言葉」「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解をすること、保育内容の各領域を総合的に捉え、構想、計画、指導、実践、省察する力を習得することが授業の概要である。ねらいは、領域「言葉」「表現」のねらい及び内容について理解し、生活や遊びの中で乳幼児が身に付けていく

内容や育ちを踏まえて具体的な保育を展開する方法を身につけることである。到達目標は (1)乳幼児の心情、認識、思考や動きを視野に入れ、保育を展開し適切な援助ができる。(2)言葉や表現について豊かな感性を養うための環境の構成と保育の展開について具体的に計画を立てることができる。(3)素材や教材について特性を理解しそれらを活用することができる。以上の3項目を設定している。

2人体制の授業であり、私は表現の指導法についての5回と、保育内容健康と人間関係の指導法とのコラボレーションプロジェクトである、地域子育てフェスティバルでの遊び場についての企画運営という体験的な学びについて担当をしている。前期に学んだ広義の意味での「表現」を具体的に保育につなげていく授業であるため、前期での学習との繋がりを意識し指導することで、学生の学びの連続性を大切にしたいと考える。

(4) ダンスムーブメント

身体表現の発展・応用的取り組みとして、ダンスの5つのエッセンス(身体性・コミュニケーション性・審美性・娯楽性・情緒性)をヒントに、様々なダンスジャンルについての知識提供と実践を織り交ぜた授業を行なっている。青年期にある学生自身が踊る事の楽しさや意義を感じることや、様々な表現経験から生まれる自信が、保育現場での表現活動を豊かに構築する底力となると仮説を元に授業を行なっている。

(5) 子ども文化演習 C・劇

本授業では2年間の学びを活かしながら、子どもたちが鑑賞する事を目的とした劇を創作・実演する。子どもの心性に基づき意図をもって作品を創作すること、実際に自身が舞台上で表現することを通して、総合的な表現の重要性・表現の過程の重要性や演出法・制作技術・各種効果等を学び、保育者としての資質と専門性を高めていくことを一つのねらいとしている。また、この体験過程を通して自身の表現力、コミュニケーション能力、創造力、問題解決能力等の実態に気づくこと、それらの能力を向上させることもねらいとしている。本授業は、教員3人体制で実施し、造形・音楽・身体 of 各分野の専門教員が担当となっている。

本授業は自身の教育の理念の一つである「創造性と協働性の涵養」の要となる授業であると捉えている。その為、授業実施に当たっては特に、「アクティブラーニングや体験型学習という授業形態が、学習者にとっての主体的・対話

的で深い学びに本当に繋がっているのか」について意識をしている。保育を学ぶ際の体験型学習では、子どもが行う活動を同じく行うという手法を用いることも多い。これらの活動は、子どもの心性を想像し、必要な環境や適切な進行・配慮を考えるために有効である。しかし、表現分野においては、大人自身の感性や表現力の豊さそのものが、子ども達の表現に多大な影響を与える事を考えられ、子ども達の活動を同じく行う体験型学習だけでなく、学生自身が心身を解放する感覚や熱中する感覚を実体験し感性と表現力を磨く機会が必要だと考えている。そのような活動を行う際の要になるのは、青年期の学生の心性を踏まえた、動機付けや進行である。特に「子ども文化演習 C・劇」の授業では、学生自身が夢中になって活動できるよう、題材や活動プロセス、グループ特性にあった介入など、慎重にファシリテーションしている。

学生自身の興味関心を引き出し活動を行う機会を設けることで、前向きな意味で自分と子ども達の感覚の違いを意識することもできる。自分たちの年齢だから成り立ったこと、子ども達の場合はどうかを考えることによって、発達段階にあった表現の意義を捉えるきっかけを作っている。また、学生達の今ある能力を最大限に駆使しないと成り立たない高いハードルの授業は、臨場感や実感を伴った問題解決型学習にもなっていると考ええる。

4. 教育の成果、評価

以下の表は、2019 年度学生に対して行われた授業アンケート結果である。
問 4：総合評価、問 1：学生自身の取り組み、問 2：授業の内容、問 3：授業方法はそれぞれ、(表 2) の通りである。

	保育内容表現	幼児体育	ダンスムーブメント
問 4	4. 7 8	4. 7 7 (△ 0. 3 9)	5. 0 0
問 1	4. 5 6	4. 5 6 (△ 0. 3 9)	4. 5 5
問 2	4. 8 3	4. 8 1 (△ 0. 5 1)	4. 7 3
問 3	4. 9 0	4. 9 7 (△ 0. 5 2)	4. 9 3

(表 2) 2019 年度の授業アンケートの結果一覧

2019 年度開講された授業のうち、単独で担当した 3 つの授業について記述する。

（１）保育内容表現

保育内容表現に関しては、2019年度子ども学科より始まった新設科目であるため、前年度との比較はできない。数値も総じて高評価であり、学生にとっては一定の学びの実感があつたと考えられる。自由記述は全て前向きな記述であり「体験をしながら、表現の仕方を学べたのでよかったです。」「体験をする授業が多く、いつも楽しく学ぶことができました。」という、本学のコンセプトの「遊んで学ぶ」に繋がる授業であつたと考える。また「とてもわかりやすく教えてくださり、理解が深まった。」「全ての内容がわかりやすくて、とても自分のためになる授業でした。」など、教授の方法も学生にとって適切なレベルであつたのかと受け取れるコメントも多数寄せられた。今年度から始まった授業であり「感性という抽象的な観点をなるべく学生にとって理解しやすく魅力的に伝える」という点に重点を置いて授業内容と教授法を練つたが、その目的は概ね達成できたものと考ええる。また、図画工作の授業とコラボレーションして行つたプロジェクト型の学びに対しても、「楽しかった」「企画が良い」などの声が多数寄せられた。アンケートには「楽しかった」という短絡的な言い回しが多かつたものの、振り返り記述の中には、プロジェクトの意図を理解し体験を知識や技能の獲得と意識できているコメントも多く見られた。学生からの評価は高いものであつたが、当初予定していた学生へのフィードバック（制作した作品を掲示する、ドキュメンテーションとして学生の学びを日常の中で見える化する）が十分にできなかった。それらを充実させることで、学びの過程を日常的に感じながら他者の学びについても共有できること、ドキュメンテーションなどの可視化された情報の保育環境としての有用性を実感すること、というような対話的で深い学びに発展させていきたいと考える。

（２）幼児体育

幼児体育に関して、学生からの総合評価では「４．７７」との数値が出た。昨年度は「４．３８」であつたため０．３９ポイント上昇した。問１：学生自身の取り組みについては、「４．５６」で昨年度は「４．１７」であつたため０．３９ポイント上昇した。問２：授業の内容については、「４．８１」で昨年度は「４．３０」であつたため０．５１ポイント上昇した。問３：授業方法については、「４．９７」で昨年度は「４．４５」であつたため０．５２ポイント上昇した。どの項目も大幅に上昇した。昨年度、社会人入学者が増え学習者間の意欲・学習習慣の差が年々拡大していく中、授業内容・進行方向につい

て更なる工夫・模索が必要であると前年度アンケートから感じていた。子どもたちの育ちに求められるものが時代とともに「創造性」「非認知能力」などに変化していく中で、育てる保育者像も変化せざるを得ない。幼児体育においても、「ただ遊びを覚える」だけでは学習は達成されないことになる。これまでの入学前の学校教育過程の中で「覚える」ではなく「考える」という学習に慣れていない学生に対しいかに効果的な授業方法を用いて動機付けをしていくかは、教授法やファシリテーション能力など、何を教えるかでなくどう教えるかについて教員側の技量を磨いていく必要性を感じていた。そのため今年度の授業では、学生自身が楽しめる具体的な遊びを行い十分に体を動かしつつも、ポートフォリオを活用し学びの省察・自己評価を行いながら学び進めることで学びの実感を持ってもらうよう工夫した。また知識技能の獲得を学生が実感しやすいように、教科書をこれまでよりも活用し、順序立てて見通しを持って予習復習しやすいように心がけた。学ぶ意欲が高まった時には、自主的に学べる道筋を立てられたことが、授業内容や授業方法のみならず、自身の取り組みについても数値が向上した理由と考えられる。

（３）ダンスムーブメント

数値として非常に高い評価となった。前年度の該当授業（リトミックリズム運動）と比較しても全ての項目で前年度を大きく上回った。問４では受講者（１年生）全員が５点をつける結果となった。問２の２、３について２と評価した学生も、自由記述欄では「ダンスのレベルが高くてついていくのが大変であったが、とても楽しかったです。来年も取りたいくらいです。」という記述をしており、大変だったけど高めのレベル設定だったからこそ楽しめたと解釈できるだろう。開講時期が前期から後期に変わり、特に１年生は学校に馴染んだ状態で表現活動が行えたことも、学びやすかったと考える。教室も体育館からプレイルーム１に変えたことで、細かな指導が届きやすくお互いにコミュニケーションを図りやすかったのも良い点だった。来年も取りたいというようなコメントが１１名中２名いたことは、今までにないことで、学生自身のもっと学びに対する主体性を引き出せたと言える。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 保育内容表現

短期的目標	・今年度の授業体系を基本として、教員がドキュメンテーションなどを作成し学びの見える化に取り組み、学びを意識しやすい環境を作り出す。 ・今年度同様、他の授業とコラボレーションすることで、学びの連動性を意識し、それを保育観に反映できるようにする。 ・授業の振り返りを即時的に ICT を活用し共有し、フィードバックしていく。
長期的目標	・キャンパス内に五感を刺激するような植物を増やすなど、季節を通して環境整備・構成し、キャンパスを日常的に丸ごと学びの場として活用できるようにする。 ・個人の学びを蓄積できるように、振り返りコメントだけでなく、ワークブックのような形で、表現分野ならではのポートフォリオの形式を確立させていく。

(2) 幼児体育

短期的目標	・今年度の授業スタイルを基本として、各年度の学生の性質に対し落ち着いて臨機応変な改善ができるようにする。 ・体育館の中の音響や映像鑑賞の環境を今一度見直し、学習環境を整える。
長期的目標	・屋外の自然環境を生かした遊びを学べる環境作りを行う。(ロープを使って作る遊びなどを安全に学べる環境整備と、教員の指導内容・技術の向上) ・幼児の来学のタイミングで共に運動遊びを幼児体育の授業の中で行うような、仕組み作りを行う。

(3) ダンスムーブメント

短期的目標	・今年度の授業スタイルを基本として、各年度の学生の性質に対し落ち着いて臨機応変な改善ができるようにする。 ・体育館の中の音響や映像鑑賞の環境を今一度見直し、学習環境を整える。
-------	---

長期的目標	・自身のダンス表現を子どもたちの前で発表したり、子どもたちと共に楽しめるダンス表現についても創作し子どもと共に表現し合えるような機会を設定する。
-------	--

6. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（保育内容表現、幼児体育、ダンスムーブメント）3枚
- (2) アンケート集計結果（保育内容表現、幼児体育、ダンスムーブメント）3枚